

## カエサルのもものはカエサルに、 神のもものは神に

鍵となる聖句：「イエスは答えて言われた。『カエサルのもものはカエサルに返し、神のもものは神に返しなさい。』すると、人々はイエスを不思議に思った。」

マルコによる福音書12章17節

選読箇所：

マルコによる福音書12章13-17節

私たちがまた、イエスの知恵と教えに感嘆します。この鍵となる聖句は、多くのキリスト教国で日常語の一部となっています。イエスがこの言葉を語ってから二千年が経った今も、それは偉大な真理として私たちの心に響き続けています。

この「鍵となる聖句」の文脈において、互いに憎み合っていたパリサイ人とヘロデ党の人々が、主を陥れるために手を組んでいる様子が見て取れます。彼らの言葉は偽善に満ちていました。「そこで、彼らはパリサイ人とヘロデ党の人々を何人か主のもとに遣わし、その言葉によって主を陥れようとした。彼らは来て、主に向かって言った。『先生、私たちはあなたが真実な方であり、誰の意見も気にされないことを知っています。あなたは人の外見に惑わされることなく、まことに神の道を教えておられるからです。カイザルに税を納めることは、律法にかなっているのでしょうか。納めるべきでしょうか、それと

も納めるべきではないでしょうか」(マルコ 12:13,14)。彼らの言葉は偽善的であり、その心深くに根ざしたものでした。彼らは、イエスが「まことに神の道を教えておられる」などとは、一瞬たりとも信じていなかったのです。彼らの邪悪な動機を見抜いたイエスは、こう答えられた。「偽善者たちよ、なぜわたしを試みるのか。税金用の硬貨を見せてみよ。」そこで、彼らはデナリウス銀貨をイエスに差し出した。(マタイ 22:18,19)。パリサイ人とヘロデ党員がデナリウス銀貨を差し出したという事実は、彼らの欺瞞をさらに裏付ける証拠であった。

ユダヤのシェケルは、神殿の奉仕のための献金用貨幣であった。デナリウスはローマの貨幣である。ローマへの税はデナリウスで支払われた。イエスを中傷する者たちは、その貨幣を財布に入れており、シェケルではなくそれを差し出したことで、彼ら自身がカエサルへの貢ぎ物を支払うことが合法であると信じていたことを示した。したがって、彼らの主張は偽りであった。

イエスはその硬貨を手に取り、皆に見えるように掲げられた。そして、「これは誰の肖像と銘文か」と尋ねられた。彼らは、「カイザルのものです」と答えた。イエスは答えて言われた。「カイザルのものはカイザルに返し、神のものは神に返しなさい。」すると、人々はイエスを不思議に思った。(マルコ 12:16,17)。マタイの福音書には、その後、彼らが「イエスを離れて去って行った」と付け加えられている(マタイ 22:22)。彼らは自らの仕掛けた罠に嵌まり、その策略は失敗に終わり、後世への教訓として記録されたのである。

今日の混乱した世界において、クリスチャンである私たちは、信仰の実践に関して対立を招くような問いに直面している。対立する思想は、聖書を用いて自らの立場を補強しようと試みる。様々な方向に引き裂かれそうになっても、キリストとその教えこそが私たちの錨であり続ける。まず、私たちの創造主である神に仕えよう。神を愛し、隣人を愛するという、イエスの単純明快な教えに従おう。 敵さえも愛しましょう！イエスはこう言われました。「あなたがたに聞く者たちに言います。敵を愛し、あなたがたを憎む者に善を行い、あなたがたをののしる者を祝福し、あなたがたを悪用する者のために祈りなさい。あなたの片方の頬を打つ者には、もう片方の頬も向けなさい。また、あなたの上着を奪う者には、下着も拒んではならない。」（ルカ6:27-29）

「黄金律」は、私たちの日々の歩みの道に輝かしい光を照らしています。「あなたがたも、人々にしてもらいたいように、人々にもそのようにしなさい」（ルカ6:31）。「 」と、法によって定められたものは「カエサル」に返し、私たちのすべてを神に捧げましょう。